

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 21 年 2 月 26 日
調査実施の時間	開始 9 時 30 分 ～ 終了 3 時 00 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームあけぼの (福島県)
-------------------	------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>山内美智子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>山田 みき子</u> ヒアリングを行った職員数 (2) 人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0792730012
法人名	特定非営利活動法人EOS
事業所名	グループホームあけぼの
所在地	福島県大沼郡会津美里町下堀川字中川46番地 (電話) 0242-54-5002
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	福島県会津若松市千石1丁目2-13
訪問調査日	平成21年3月26日

【情報提供票より】 (21年2月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 3 月 3 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	5 人
非常勤	4 人
常勤換算	3.0 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	2,000 円	
敷金	有(円)	○無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83.1 歳	最低	67 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高田厚生病院 福田歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心地から少し離れ人や車の往来の少ない静かな環境に位置し、周囲は野菜畑や果樹畑が広がっている。開設されて丸2年であるが地域に前向きに出向く活動をしている。職員の交代もなく利用者はホームでの生活になじみ、ホームの生活を楽しんでいる様子が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目について話し合い家族への報告や職員を育てる取り組み、同業者との交流を通じた向上の項目については改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員がそれぞれに全項目評価を行ったものを管理者がまとめて上げている。評価についての全体の深い話し合いはされていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	定期的に2ヶ月に1回開催している。ホーム内での対応に困った事例を相談するなど具体的な内容について話し合いされている。会議の内容を職員に伝え全体のものにしていく。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者のお金の管理の仕方や、特定の利用者にもみヤクルトを飲ませて欲しいという要望を工夫して実現するなど家族の意見や思いを運営やケアに生かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	警察署や来年度就学児童に利用者が作成した交通安全お守りを寄付したり、ボランティアで訪問された方に利用者が作った刺し子の布巾をプレゼントするなど、助け、助けられの関係を地域に作りつつ、利用者の張り合いにもなっている。

2. 調査報告書

〔調査員氏名 熊谷まゆみ / 同行調査員氏名 山内美智子〕

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「癒しと安心」という理念を掲げているが地域密着型の役割としての理念はない。しかし地域の人たちに理解されお役に立ちたいと手作りお守りをプレゼントをして地域の人たちから喜ばれる活動をしている。	○	地域密着型サービスとしての役割も理念に表現してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「癒しと安心」をケアの実践で具体的なものになるよう職員全体での話し合いは十分にされていない。	○	理念を共有し振り返る場を作りケアの実践につなげてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っている。ふれあい市での買い物、文化祭への作品出展、警察署や就学児童へのお守りの寄付をするなど積極的に地域と交流をはかっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価表を配布し、全員で評価に取り組んでいる。昨年の改善項目についても話し合いをして改善につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に行われている。メンバーも増え話し合いは定着しつつある。年度末には合同の食事会を予定している。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活の様子を伝える『家族へのお手紙』を毎月金銭報告と一緒に家族に届けている。このことで気づきも多く見られ面会時の家族に報告する内容が増えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情記録書や相談記録書が管理されている。お金の管理について家族から言われて改善したりヤクルトを飲ませたいなどの家族の要望にも工夫して応えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来退職者はいない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に職員を参加させているが、研修報告も含めて内部での研修は充実していない。職員一人ひとりの力がチームの力に生かされていない。	○	外部研修の報告も含めて内部研修を計画的にし、職員間の話し合いの場を多くしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や会津のグループホーム連絡会に加入し研修会や交流会に参加して学びや情報交換の場になっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	農作業や園芸、料理など利用者から教えてもらうことが多い。裁縫を自分の仕事と思い励んでいる利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用はやっていないが気づきノートを作成し記録回覧している。が日常のケアでの気づきや把握した生活歴などの記録が十分ではない。	○	日常のケアの中で把握した生活歴や利用者のつぶやきや気づきを記録、共有してケアに生かしてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時家族と話し合い要望や意見を引き出し、介護日誌、気づきのノートをもとに担当者とケアマネと管理者で相談して支援計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	車椅子が歩行見守りになるなどの変化が見られた場合、利用者の変化に伴って担当者間で話し合い介護計画が作られている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に納得が得られるかかりつけ医になっている。受診のほとんどが職員対応で情報提供を適切に行っている。家族に受診報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為の発生する重度化や終末期におけるケアについてはまだ検討されていない。	○	重度化や終末期に向けたケアのありかたを職員で話し合ってほしい。その上で協力病院との連携や課題が見つかると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応は穏やかで親しみやすく誇りやプライバシーを損ねる様子は見られなかった。個人情報などの記録の管理は適切だった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が生活時間を規制することなく早起きの人や寝坊の人もいてうまく生活が成り立っている。一日の過ごしかたも利用者の思いのままを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒にメニューを決め、買い物をし、調理、配膳、後片付けをしている。食事時間も穏やかだった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけは必ず行い強制せず楽しい入浴になるようにしている。基本的には日中のみ週3回の入浴日だが本人の希望でいつでも入浴で来るよう支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	テーブル拭き、カーテン引き、メニュー書きなどのほかに配膳、後片付け、針仕事や掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、園芸、畑仕事などできることをやりたい人にやってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	天候や健康状態を見ながら散歩や食材購入、外食、ドライブなど支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が施錠することの弊害を理解していて普段は施錠していない。支援者が少なかったり利用者が落ち着かなかったりするとき施錠するときがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人の理事や消防署や近所の方と一緒に避難訓練をやっているが、夜間想定では行われていない。食品の備蓄もされていない。	○	引き続き消防署と相談しながら夜間想定も含め現実味のある訓練を重ねてほしい。食品や水などの備蓄もお願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ノムダス表を使い水分・食事の摂取量が把握されていて不足の利用者には声掛けして摂取してもらっている。食品の種類が多いメニュー作りをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間には炬燵、ソファ、テーブルが置かれ思い思いの場で過ごせるようになっている。南と北両方の広いガラス戸を通して季節感のある自然の風景が見渡せる。手作りの雛人形の貼り絵が展示されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使用されていたものの持込をお願いしている。使い慣れた家具や家族の写真、仏具など持ち込まれていた。家族が1週間滞在していく利用者もいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム あけぼの

記入担当者名 管理者 山田 みき子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。